



重徳琢石随火獨吟 兼哥仙集

中村俊定文庫
文庫 18
117





年 憂ハ花見ヲ中ノ旬ノ瓜ノ明切
 二 月中旬ノ瓜ノ明切
 縣ノ帥ノ君儲き家
 世ノ轉ノ襲時るノ此衣
 有明ヤ通ノ藍車ノ新後凡
 有明ヤ通ノ藍車ノ新後凡
 を之のり此根ハ足心ニ
 後ノしトは不襲ノをノ此衣
 頂ノ明石松海箱崎 夷合海
 扇ノ名ト遠トノ可少キ也



重徳

三焦乃公前 念より古
いづもくは礎の肩のほく程
比年尼乃菴新 必不 月
片時為程磨り 影 冥
いささか ぬ乃曲つおるし
乱髪 胸より 多く 髪を
有柳のふり 存直さく
功德品 筆り 時 法う
火と燦 形も 又 入ん
臥竜亭 不刺 小塊のま
風和 ぬと ぬと
雪より 送旅 母の信り 飛を
三日月の長年 年のを
皓く 湯冷の 喜れ やり
里乃 草 此 草 乾 花 香
這出 旅 標の 角の 三ヶ 乃 月

秋の氷乃 氷の 粉り
暮歌や 合柳り 名り 後
あり 名り 名り 名り 名り
法きの御所と 東へ 不所
柳乃 あり 名り 名り 名り
詩り 年時 柳を 名り
社櫻乃 年り 名り 名り
葦牙の 名り 名り 名り
舊記 又 名り 名り 名り
於 名り 名り 名り 名り
い 名り 名り 名り 名り
る 名り 名り 名り 名り
世 名り 名り 名り 名り

六十多年せう 眠り
いづも 紙摺り 名り

躍子の屋の 發 糸 婆 子 取
誕 子 居 家 秋
大 代 衣 居 糸 子 孫 人
イ 元 三 四 四 玉 子 居 子 居
カ 子 子 子 子 子 子 子 子 子
醫 子 子 子 子 子 子 子 子 子
京 册 子 子 子 子 子 子 子 子 子
壁 子 子 子 子 子 子 子 子 子
あ 子 子 子 子 子 子 子 子 子
廿 子 子 子 子 子 子 子 子 子
む 子 子 子 子 子 子 子 子 子
狐 子 子 子 子 子 子 子 子 子
昔 子 子 子 子 子 子 子 子 子
首 子 子 子 子 子 子 子 子 子
信 子 子 子 子 子 子 子 子 子

秋の意や 馬糞 埋む 糸 子 子
門の 籠 子 子 子 子 子 子 子 子
上 龍 子 子 子 子 子 子 子 子
鎮 西 八 子 子 子 子 子 子 子 子
却 子 子 子 子 子 子 子 子 子
傘 子 子 子 子 子 子 子 子 子
近 子 子 子 子 子 子 子 子 子
廓 白 子 子 子 子 子 子 子 子 子
和 僧 子 子 子 子 子 子 子 子 子
古 侍 子 子 子 子 子 子 子 子 子
先 夜 子 子 子 子 子 子 子 子 子
伊 勢 子 子 子 子 子 子 子 子 子
た 子 子 子 子 子 子 子 子 子
尾 子 子 子 子 子 子 子 子 子
赤 子 子 子 子 子 子 子 子 子
若 居 子 子 子 子 子 子 子 子 子

日のをき名遠に勝るを初
急脚の終り御多々
萩の條と食袋より
喜ハ二幅の巻本程花垣
新戸川多々喜しいや致と根
新戸川多々喜しいや致と根
渾沌未分車乃牛子
舟士乃烟ハリヤ焼
揖枕乳乃多々喜
薄衣比
花多代渡
雜菜種菜の奈良ハ
賦何臧誹諧連歌

松系捨人
鈴喜ゆりよ

水菓子の菴物の露を合
乳母の名比の灌り
名月の隈きの向
浪りのかのらのれの海
松のうの急の法の示の昭の少の僧のあのまのく
照の不の日のりの居のろの履の一の豆
十月の日の女の都のうの片のまのりのき
筒の杜の名の穀の多の先のくのれ
常の戸の小の泊の浪のあのまのとのみ
實の海のとの業の奇の能のをの孤の小の老のり
出のるの者のかのいのつの乃の日の摘のの喰の了の人
新の足のとの頰の杖のの月
書の他の心のしのるのをのらのいのる
度のもの根の筆のもの橋のるのりのるのる

凡我妻之心を種
羽子板の後に姑
糸尾の於るを考
酒のやぬ日亦物
喜とての本葉乃
小字ひとつ乃
新院より武長北
元百四乃一時
燭や其乃乃風
祖母祖文并而
枝姉よふ萩の
叫 雁白乃瀟
園 基一焉の半

小刀天花う
糸仙よよけ家
浪

秋吟

秋めし人結つ
舞の古根の河
水車涼よふ
秋節をまつ
橋咲垣り
身よりゆき
終りを困り
氏のを奈乃
至極 偃
奇事放
騰月 彦
石ひつ
泥乃

琢石

ふふとむ 蓮の風をふたつとて
浮世と笑ふ 法への音は遠
雲栖軒や 冥智宗を 仰ぐ
初秋 残花乃 山雲より あり
省墳乃 花のむしり ありて
富より 残る 水う 歸る
片足 掃く 職人 鶴
可屋乃 陰より 雲より 雲より
いふ 科と 雲の 雲
長家ハ 人より 雲より 雲より
月より 雲より 雲より 雲より
天國ハ 雲より 雲より 雲より
大和乃 雲より 雲より 雲より
雲より 雲より 雲より 雲より
日より 雲より 雲より 雲より

初一月や 雲の 雲と 雲
子と 雲の 雲の 雲
布袋乃 雲より 雲より 雲
車坂乃 雲より 雲より 雲
雲より 雲より 雲より 雲
君より 雲より 雲より 雲
書乃 雲より 雲より 雲

獨吟

孤乃 雲より 雲より 雲
一乃 雲より 雲より 雲
誰川 雲より 雲より 雲
又月

隨友

浴乃りゆり屋かゝる 後ろせぬ
此をきき 躍ぬ程の道より
富永 郁乃 様 豊き
不の更なる 廟 廟 門乃 松
掛りて 孫の身より
壺に 入る 店より 行きて

あまの 古墳に 花より
傾珠の 世をよみて 何一 身
母の 朝顔の 心
目通乃 新秋の 後乃 月
牙より 舟に 入る 舟
岸遠く 舟門の 浪より
舟人かき 楠の 心

濫 儀 姫 媪、新 路乃 花より

車 乃 車より 野 心
平 安乃 田舎の 春より
舟 乃 舟 大佛の 心
舟 乃 舟 舟の 心

平 安乃 涼 所の 舟より

又 又
月乃 舟 酒 酔乃 採りて
舟 乃 舟 乃 舟 里
舟 乃 舟 乃 舟

月宿隱所 寄む 秋の念
たのありき 尸の心

○幸何の代り 乱るし 玉の山深き
松乃 漸く 暮るる

岩くまの 自らぬる 草の一葉
路

より 庭 玉 靴 の元

候時 白玉の 戸の 陰 舎りて
暮る 秋意の 陰 心

備正乃 袈裟の 敬事 くれま
公ふれ 悼 せん まる 川の 途

僻點三十句
内○兼長三

珍十一

信徳判

兩吟

九重乃 寄る 閑る 冥 途
長柄傘 かきし 此 秋 折 露
西の 庭 子 細を 傳ふる
千早 張 神代の 糸を まる
深し 秋の 加 藤の 一抱
藤月 のり 藤を 孫
日 午 櫛乃 言 細 婦
塵を ちよ ちよ 居る 游る 相 打
と 念 夕を 一 糸 交る 白
美 連 躍の 通 糸 月 白
多 丹 四五 所 乃 乃 意の 家

肅山 信徳
同山 同徳
同山 同徳
同山 同徳
同山 同徳
同山 同徳

青丹とほり茶煙の體碎 貞
娘、車力油令し 貞
恨後流汗まこれ切し 貞
あさつま喰し 香を強し 貞
住しヤシテと為れ 貞
皺引延し 貞
難うまゝ 貞
乙娘や一乃后よ 貞
いつの田極力 貞
青丹し 貞
かゝる 貞
肌下 貞
蟬 貞
浴 貞

徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月

笑るゝ 貞
何となく 貞
畔よ 貞
山 貞

兩吟

日の影 氷乃負 貞
家身 貞
住 貞
祝 貞
相舎 貞
烏帽子 貞
そと 貞

信徳 肅山 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月 徳山月

系衣し夜に火氣を思ひみ
あ髪はりし髪斬りて種
五丁余経し目をはりて人
物語を城の序 而も
裾巾し小鷹 幸う後池
旁うあお蔵袖まき志のり
亥昏月と名し新化を
東叡の衣う魯流 隔田川
船りし髪を打のりて
去降し妻をつまき又告
袖は後う衣や 剥
行衣し後う所のお和
短葉ふく利体りて
二丁三丁を首 髪を斬り初
あ髪しし不厭ハ凡情を

徳月山 徳月山 徳月山 徳月山 徳月山 徳月山 徳月山 徳月山

多能きこれと系筒子網
拾しとす男をたれ 麓
元夕に法里ぬ物のりてよ
如しと東風のりてあ湯
衣ハ又も氷踏消スあひ川
子し髪を斬り 初
孫待し湯うなまき程を衣
秋乃巾 遠き 都 明 秋
艶女脱し袖のりてあやん
病蝶子花のりてあやん
指うつし水乃髪を

日山 日山 日山 日山 日山 日山 日山 日山
發句
長乃口ヤ 寅し催し初櫻
蕭山

両吟

まふり倒すことこれ無教馬の
暴風乃朝や小波 ちり隠
解入細い月つる月怨く
殿行かんといふ 大二年
そむらう杉乃鳥さ 唐の風
輝に、傘あふ霜の離れ
賣女長ふの思ひれあふ人
日つねらふふりふり文あふ
百里ふあふれまに身近山
圓栢乃さす杉乃松のり中
人後、光やまの呼ぶるを
志り〜〜 ちやゆむ路丸の琵琶
良の志さるる〜〜 月
狭きと残る地龍〜〜 月
麴は系難波男乃釋〜〜 月
の髪〜〜 古電

如琴 信徳 令 琴 日 徳 日 琴 日 徳 日 琴 日 徳 日 琴

一日の花子借りきり 後 堂
目録に 若草の奈良
妹君胡蝶乃 糸を柳乃
糸乃ちぬ糸乃 志〜終
中〜 荆乃 西園乃
枯葉乃枕 大年 乃 若
徳り志 堀魚煮 糸乃文
隠〜 糸乃 糸乃 糸乃
相撲見乃川乃大暮乃 宮刑
不福田穂乃 幸栢乃 声
女知乃のよ衣月乃何知乃
使者乃 撰乃 馬乃 餅乃
松乃 糸乃 時乃 糸乃
糸乃 糸乃 糸乃 糸乃
大根子畦水 糸乃 糸乃

日 徳 日 琴 日 徳 日 琴 日 徳 日 琴 日 徳 日 琴 日 徳 日 琴

音毎に酒買上陸とありき
帯ア〜まね 神乃 爆竹
花髪多髪巾〜も来 粧の扇
し一舌 妻のそつ〜も来

日 法 日 琴

西吟

僧あ〜 沖の石見る 月取る
菅と秋婦〜 園司 上福
の〜衣俗儒 秋の氣 咲〜
帝 神と ありき 妻 知
山と事つ〜分 さま 後つ 通る人
舟の〜 縁や 舟の ありき
傘 脊肩の 海の 富を ありき
夜〜 篝の 照る 薄 少家
主〜 草庵と 夕の 雲を ありき
あり〜 舟の 是を 夜 親の 中 陰

日 日 玉 日 法 日 玉 日 信 徳 烏 玉

傾城の 勤は〜る 女 庭 ありき
五多〜 事 ありき ありき
山〜 哉〜 の 胸 あり 居 あり
曉〜 入 定 あり 月
如 猶 あり 寂 あり 持 衣
形〜 あり あり あり
咲〜 花 湯 あり あり
玉 津 崎 根 あり 海 あり
海 あり 京 あり あり あり
白ひ〜 あり あり あり
六月の 早 あり あり
海〜 あり あり あり
多〜 あり あり あり
海 あり あり あり あり
暖〜 あり あり あり あり
積 放 あり あり あり あり

日 日 玉 日 法 日 玉 日 法 日 玉 日

雷や遠く道行く 詠の房
月おぬらうらら 瀨の砂の川
名おと蒼 程の城他
人參 湯の松 煙を
艶 目をぬぬ 雄雄
測穿力とあうあ 帆 蓬
房れ 酒賣程の家 花
煉り 埋まぬ 大 花
花の枝 おも 景他家 友鳥
添生し 京志北の 言を 旅

三吟

山跡や奴子しやま 櫻入
鎖り 蝶の相好 里大
上流 家居新の春 弟
耳と 洗 細川 乃水

日 日 日 日 日 日 日

重 信 珠 重
重 信 珠 重
重 信 珠 重

蒼蒼や月夜 笠をさす 立姿
草 巾 市 竹 杖 杖
村 森 の ち ら ち ら 中 乃 乃 乃 乃
夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
雪 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
誰 幽 盡 の 幾 幾 乃 乃 乃
花 橋 あり あり あり あり あり
神 門 物 古 風 唐 乃 乃 乃
即 太 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
身 踏 こ 不 不 不 不 不 不 不
難 波 浮 阿 波 屋 乃 乃 乃 乃
身 の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
花 一 本 中 陰 乃 乃 乃 乃
垣 根 の 草 膝 の 氣 吞 子
身 の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
日 の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

石 石 石 石 石 石 石 石

大いなる地を震と居りて其の
石の流るる海に主と居り
笠松のともゆき深く枝は
令孫のままと敗り喰ひたり
祿ありぬ生宿ふ必死に
をい多し終りて名に君の冠
徳種の隙倉見んとて甲
暖の月の難面つりし事
秋より雄と峰の落りて
後致りて消家あるり
智徳堂金鐸のありて
落武者屍の毫の居る
眺よりまじけり
ハヤ山ゆき乃艶とあり
春の月をあるにけり
鄙志城埋む言う二月

石を沈んずるは石を沈んずるは

